

これを受けて、社会科の研究テーマを

社会的事象の特色や意義を考え、社会への関わり方を選択・判断する社会科学習の追究

と設定しました。

社会科は「夢中になって問い続ける生徒」の姿を、次のように考えています。

- ・社会事象を「なぜ?」「どのように?」と問いを持ちながら正しく認識する姿
- ・多面的多角的に物事を捉え他者との議論を通してよりよい解決を図る姿
- ・世代や地域(国家)を越えた他者への影響を踏まえ持続可能な解決を図る姿

このような姿を求めていきます。



私たちにできることは
どんなことだろう?

そのために、私たちは

生徒と共に、社会的事象の特色や意義を考え、社会への関わりを選択・判断する学習に取り組みます。

そして、そのような学習を実現するカギは次の **4つの視点** だと考えました。

歴史「近代日本の歩み～辛亥革命を支えた日本人～」を例に示します。

視点① 追究意欲を喚起する教材開発



なぜ孫文が2度も熊本の荒尾の民家を訪れているのだろうか?

視点② 生徒と共に作る課題設定



教科書の編者は、どのように課題を解決しようとしているのだろうか?

視点③ 必要感のある話し合いの場の設定



今の私たちにできる交流とはどのようなものなのだろうか?

視点④ 新たな問いを生む評価のあり方



当時の明治政府の立場から判断すると・・・